

進路ジャーナル

青森県立森田養護学校

進路指導部 No.6

令和3年9月17日発行

特別支援学校に在籍している子どもたちの多くは、高等部を卒業後、それぞれの進路先は違っても、働くことを中心とした社会生活を送ることになります。一人一人がそれまでの学校生活、家庭生活で身に付けてきたことを基に個性や力を発揮して、より自立的に社会参加していけるよう、学校と家庭が協力して支援をしていくことがとても大切です。今回は、卒業後の進路へ向けて、高等部で実施している「産業現場等における実習（通称：現場実習）」についてお話しします。

「産業現場等における実習」？「現場実習」？

正式な名称は「産業現場等における実習」ですが、学校では簡単に「現場実習」と言うことが多いです。言葉は違いますが、同じことを指しています。



何のために「産業現場等における実習」は行われるのか？

企業や福祉施設での職業生活の経験を通して、**勤労の意義**（何のために働くのか）について理解するとともに、**社会人として働く上で必要な態度**（社会人としてのマナーや適切なコミュニケーション）や責任感を身に付けることを目的として行われます。また、実際に職場で働いてみる経験を通して、自分の進路について関心を持ち、社会的・職業的自立に必要な態度を身に付けることを目的としています。

実習先はどうやって決めるの？

まずは、生徒本人や保護者の希望を聞き取ります。ここで、大切なのは、「本人の希望」です。「自分が実習先を考える」「自分が進路先を考える」ことで、自己選択・自己決定の機会をもつことができます。また、情報量が少ないために、学校側にゆだねられることもあります。生徒の得意、不得意、適性などをもとに、学級担任や進路指導部から情報提供を受けて、お子さんと一緒に考え、希望を出してください。その希望をもとに、校内や他校（県内の特別支援学校が概ね同時期に実習をしています）と調整をし、その上で企業や事業所と調整をし、実習先が決定します。



複数の実習先の経験を！

中には、高等部入学時点で卒業後利用したい事業所が決定しているというケースがあります。早い段階から、自分の進路に関心をもつことは大変よいことです。しかし、たとえ進路希望が決定している場合でも、生徒の視野を広げたり、就労への可能性を検討したりする意味でも、在学中に複数の実習先での経験しておくことが大切です。

実習は学校の学習です

実習が始まると「実習先にお礼は必要ですか？」という質問が寄せられます。実習は学校の学習の一環ですので、お礼は必要ありません。訪問した際に、笑顔で「ありがとうございます。お世話になっています」と伝えていただければ大丈夫です。



実習の進め方の例



実習先希望調査や面談、その後の調整を経て、実習先が決定します。

決定した後でも、他校との兼ね合いや、新型コロナウイルスの感染状況で変更が生じることがあります。

実習先との打ち合わせを行います。基本的には放課後に行います。打ち合わせの際には、学校へのお迎えをお願いします。

生徒は制服で訪問します。

打ち合わせの際には、作業場所の見学や使用する出入り口、更衣室やトイレ等についても確認しましょう。

保護者の方にも、実習の様子を見ていただきます。

見学のポイント

- ・実習中の服装、態度
- ・報告・連絡・相談を含めたコミュニケーションの状況
- ・作業の様子

実習中の心得

- 1 自分からあいさつをすること
- 2 休まないで仕事に行くこと
- 3 まじめに集中して取り組むこと
- 4 話をきちんと聞くこと
- 5 自分から進んで動くこと
- 6 向上心をもって取り組むこと
- 7 自分の持ち物を管理すること
- 8 けがや体調を崩さないように過ごすこと

次回の実習、進路へ

コロナウイルス感染症が広まり、実習先でも警戒を強めているようです。「ワクチンを接種したから安心」ではなく、実習の2週間前から、実習終了までの期間は、県外への往来はもちろん、たくさんの方がいる場所へ出かけることも控えるよう、ご協力をお願いします。